

早稲田ヨットクラブ

平成7年盛夏月発行

発行者・事務局長 小川寛樹

編集・広報 幸 木田晴二

石田晋也

河原康嗣

題字 小沢信三郎 会長

-32-

三戸浜 小島合宿生活 最新事情

増改築で 快適生活してマス!!

故小島様、OB諸先輩並びに関係者皆様のお力で増改築となった小島合宿所。ここで学生達の新生活が始まった。彼らの生活ぶりをうかがってみるとー

まず、大衆部屋に、布団の山が無い。これだけで非常にすっきり。廊下に部員一人一人にロッカーが与えられたため、今まで押入れに入れていた私物が無くなり、布団をしまえるようになった。大衆部屋は床も張り替えられ大変美しくなった。5名のOB諸氏から奇贈されたロッカーの設置により各人の私物が散らかる事もなく整理整頓されていて、合宿所内が非常に美しい。

「台所に強力なコンロを入れてもらったので、炒めものがシャッキリできるんですよ」と自慢顔の食当君。彼が本当にウマイ炒めものを作るかどうかは疑問を残す所だが、家庭用のコンロを使って30人分の食事を作ると、どう炒めものを作っても、できる頃には煮物になっている、という経験をお持ちの先輩、同輩諸氏は多いはず。新しくなった台所には、料理屋さんにあるような立派なガス台が付いておりました。

さらに、最近合宿所に行くといつも可愛い女子マネージャーがいるが、この頃は合宿中は毎日女子マネが訪れ、夕食のメニューは彼女達が考えるとの事。「ラッキー」と思う輩もいれば、「腕を振るう機会を横取りされた」と考える食当君もいるらしいが、OBとしては「時代は変わった」とただただ驚くばかり。

一方練習では、武村監督以下、矢口ヘッドコーチ、石

井、島山コーチの指導の下、470/スナイプ各4艇程度を出艇させて練習している。配艇は、年功序列では無く、下級生でも巧い者が舵を持つ早稲田下克上方式。厳しい。

秋の関東インカレ、そして全日本インカレを目指し意気が上がっている。(H1 川原 康嗣)



小島合宿所に庭園完成

(加藤 記)

新築合宿所前庭に総工費30万円をかけてこの度庭園『早風園』(そうふうえん)が造られました。

4月初旬より4日間にわたり工事が進められ、ぬれ緑の下に玉砂利600Kを入れ根柢は四つ目垣、出入口には枝折戸。松、椿、山茶花等の植樹もすませ、水吐けの悪い場所には排水溝を設けました。

部員の憩いの場所となるよう、杉山、加藤、木村、北島、清水、田沢、天野、小川、石井、島山、岸井、古沢、伊藤のOB諸氏が素人庭師、配管工となり完成させたものです。

今年の抱負

早稲田大学ヨット部 主将 石橋 顕

新合宿所にて今年1年のスタートを切り、部員一同練習に励んでいます。合宿所も広くなり、布団も良くなったせいか以前よりも快眠ができ疲れも取れやすく、快適な合宿所生活ができ、部員一同非常に感謝しております。

昨年を振り返りますと、全日本インカレ優勝の可能性を抱えながら、惜しくも470級2位・スナイプ級6位、総合4位という結果に終わりました。

しかし、部員の誰もが日本一という栄光が手に届くところまで来たという確信を持ったのは間違いありません。実際の所、ここ数年は日本一というものは言葉にしながらも、遠い存在のように頭の片隅で思っていたのでしょし、さらにそれが敗因の一つだったのでしょし。

しかし、先程述べたように今は確信を持っています。いや、それは確信を持たねばならないと言ったほうが良いのかもしれませんが。現役部員だけでなく、OBの方々も持って頂きたいと思います。なせならば、やはり全日本インカレを勝ち取るには学生の競技力だけでなく、OBの方々のご指導とご支援も含め、早稲田大学ヨット部総動員で戦わない事には日本一制覇は成し得ないのではないかと考えております。

今年こそは、<古豪復活早稲田>と名を連ねるためにも、妥協を許さず日々の合宿を行っておりますので、OB諸先輩方もご支援の程よろしくお願い致します。

私は、早稲田は常にNo.1であり続けなければならないと思っております。リーダーとして、部員の一人として、早稲田の一員として、そう思い活動しております。今年の11月には新合宿所竣工記念に、日本一という輝かしい花を添えたいと心から思っております。

'95年募金運動開始!!

目標額

500万円/1口・1万円、できるだけ3口以上お願い致します。

使 途

1) 小島合宿所・補修費用	313万円
2) 学生活動支援	187万円
合計	500万円

説 明

- 1) 合宿所・増改築の費用負担、(総面積52.5坪になった)
 イ.(増築部分)17.5坪 新築工事/小島様側 ……
 ロ.(従来部分) 35坪 補修費用/早稲田負担、913万円
 A> 大学より 600万円
 *** B> OB会 313万円
- 2) 学生活動費用援助、
 昨年度は(イ)ヨット部援助 390万円全日本・九州
 (ロ)監督コーチ援助 32万円
 (ハ)稲龍関係 5万円
 合計 427万円を実施しました。

今年度はレスキュー修理もあるがなお詳細な実情調査をおこなう。学生はアルバイトもやり自己負担もしています。

今年度は全日本は葉山である。援助金は上記187万円を足場に適切な援助を実施したい。

上記***印、313万円+187万円=500万円を目標としました。皆様のご理解とご協力を切にお願い致します。

追記;すでに3万円募金を開始している年代があります。この募金総額の一貫として処理致します。ありがとうございました。

振込先; 第一勧業銀行 日本橋支店

(普通) 038-1445739

早稲田ヨットクラブ

会費・自動振り込み会員ご芳名

今年から当クラブの会費・1万5千円の自動振り込みをしていただいているOBのお名前は次の通りです。敬称略させていただきます。

昭13卒 藤村
 昭14卒 山田、坂原、増井
 昭15卒 田原、永元
 昭16卒 堀江、西原、大森、石川
 昭19卒 金子
 昭20卒 坪田
 昭21卒 林
 昭22卒 久留島、清水
 昭23卒 林
 昭26卒 漆原、渡辺、秋山、上田、小俣
 昭27卒 木本、古川
 昭28卒 村瀬、佐伯、大塚、
 昭29卒 金沢、米田秀、石川、米田晴、位田
 昭30卒 千葉、松本、高島、遊佐、浜田
 昭31卒 杉山、舟岡、日色、菅田、安井
 昭32卒 武村、天神、中田、山崎
 昭33卒 加藤
 昭34卒 岡村、並木、大河内
 昭35卒 大野、山田
 昭36卒 原田、土肥、足立、吉田、鈴木
 昭37卒 原田、石田、伊藤秀、三沢
 昭38卒 安藤、佐野、中島、木村、倉谷、山崎
 昭40卒 若松、守屋、大、木内、杉山、小島、山中、
 松島、斎藤
 昭41卒 森、斎藤、滝、岡部、長沢、清水、江上、小浜、
 小坂、石井、後藤
 昭42卒 岡戸、石合、中村、原、石川、栗原
 昭43卒 冬至

昭44卒 須藤、山本、
 昭45卒 北嶋、大矢木
 昭46卒 武藤、斑目、原田、菊池、藤田
 昭47卒 三宅、
 昭48卒 杉井、平戸
 昭49卒 井上
 昭50卒 青木、近岡
 昭51卒 大嶋
 昭52卒 川瀬
 昭53卒 野口、渡辺
 昭54卒 小川、北川
 昭55卒 白石、坂爪、喜多内
 昭56卒 風間、中島、橘、長谷山、川瀬
 昭57卒 小池、長瀬、石渡
 昭58卒 鎌田、黒田、森田、渡辺
 昭59卒 佐々木、小野、市井、黒田、坂東、三好、小田
 昭60卒 小山、梅原
 昭61卒 入江、瀬戸、野本
 昭62卒 宮沢、小宮、新里、松下
 昭63卒 石井、渡辺
 H1卒 川原、坂部、長谷川、牧、茂木
 H2卒 清水、矢口、天野、主藤、田沢
 H3卒 諏訪、槐島、藤原、田中
 H4卒 川島、石田、羽田、福沢
 H5卒 末野、畠山、長田

以上、168人。今年からは252万円が固定年会費です。ありがとうございます。このリストは感激しながら作っています。

168名の皆様からいただいた会費は、OB名簿の作成、総会のご案内、この会報の印刷・送付、学生への援助等を大切に使われております。

「航跡」お読みのOBの皆様!! 加入お忘れの方はぜひ趣旨ご理解下さり封筒の表記事務局小川宛ご連絡下さい。折返し自動振込手続の用紙をお送りさせていただきます。

合宿所の父 小島様ご逝去



早稲田ヨット部・小島合宿所の増築工事が完成したことを報告すべきこの欄に、悲しいご報告をする事になりました。

去る4月14日、早風会・小島孝祿様がお亡くなりになりました。小島様は、昭和37年(1962)早風号と共に遭難された小島信浩さん(当時・大学4年)のお父君です。

当時横浜の合宿所が港拡張でなくなり放浪をつづけていたヨット部に、「別荘を作るから合宿所に使いなさい」と昭和43年(1968)から面倒をみてくがさったのでした。早風碑にそのご心境が象徴されております。早稲田大学としても、他に例をみないこのご貢献にたいし、総長からの功労賞その他で感謝の意を表させていただいております。

昨年11月2日の地鎮祭にはご高齢にもかかわらずご出席いただき、学生部員やOB多数と共に祝ってくださったのです。それが私たちとのお別れになりました。今年2月12日、小島合宿所の改造と増築が完成しました。

従来の部分の補修改造は、早稲田側の負担ですが、新しい増築部分は小島様のご負担です。つまり小島様の別荘を使わせていただいている状態に変わりありません。生まれ変わった合宿所を御覧いただけなかったのは、私



お元気な頃の小島様。左は奥様と堀江OB

どもにとって痛恨の極みであります。

4月16日、世田谷のご自宅で告別式がしめやかに執り行なわれました。早稲田大学代表、ヨット部学生、OB多数が参列しお見送りしました。早稲田ヨットクラブ全員とともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

並木茂士氏 NORC会長に就任

油壺の主、月光オーナーとして内外各レースで活躍していた国際派ヨットマン・並木さんが、今回、日本外洋帆走協会4代目会長に就任された。

195cmの長身で59才。当クラブの理事長で難問を解決し乗り切ったことも記憶に新しい。NORC自体の組織問題、日本ヨット協会との合併問題など当面の問題が山積



稲門体育会・代表委員に 伊井邦彦氏(昭和25年OB)

早稲田の全運動部OB会の連合体。従来代表委員をされていた堀江喜三氏(昭16)が勇退され新たに伊井氏が就任された。年一回の総会が5月25日開催されたが、この会は大学総長や理事との直接の接触の場である。今年にはヨット部OB理事10名出席

なお伊井OBには毎月の当クラブの理事会にも出席していただくようお願いしている。

新人・入部式/体育表彰式

(5月10日・大隅講堂)

今年のヨット部への入部者が少なく心配されているが、今年の入部式での新入部員代表の宣誓は、ヨット部、田中康夫君。

表彰式では、わがヨット部には団体奨励賞(関東選手権優勝)、早慶戦優勝表彰、武村洋一氏に監督表彰があった。

当日は小沢会長、伊井代表委員、石井講師、武村監督が出席された。

理事長再任にあたり

早稲田ヨットクラブ 理事長 土肥 丈志 (S36年卒)

いよいよセーリングシーズン到来、OBの皆様方いかがお過ごしでしょうか。日頃は早稲田ヨットクラブを通し、学生達のため多大のご支援、ご援助を賜わり厚くお礼申し上げます。

去る、春のOB総会におきまして理事長の再任を命ぜられました。至らぬ点が多々ある事と存じますが、もう一期全力を尽くして職責を全うする覚悟でございますので、OB諸兄におかれましては、旧倍のご指導の程お願い申し上げます。

再任にあたりまして、過去を振り返り反省をすると共に、新たにこれからの一期を、如何に早稲田ヨットクラブを発展させて行くか、腐心しております。ともあれ第一に重要なことは、毎月一回第三木曜日に催されている理事会を如何に充実させていくかと云うことであります。

OB会運営の実質的中心として、理事会組織が発足し、堀江初代理事長以来杉山・並木・石井の各氏、私とすでに十数年が経過しておりますが、その間いろいろな重要案件が、その席上多数討議決定され、諸問題に対応して参ったことは、皆様すでに充分ご承知のことと存じます。

私は、この理事会こそが現在の早稲田ヨットクラブをまとめあげ、その活動を支える基礎であると信じております。簡単に申せば、理事会こそが当クラブの意見決定

のなされる機関であり、なに事も理事会中心で、早稲田ヨットクラブの運営に当たらねばならぬものと考えております。

理事会発足当時、若干あいまいであった会則等、さらには理事会の権限等もこれから見直しを進め、より効率的、より民主的に諸懸案に対し対応できる体制を、創らねばなりません。

すなはち、何事であれ早稲田ヨットクラブ及び早稲田大学ヨット部に関する諸問題に対しては、すべて理事会において討議決定された後、重要案件については、更にOB総会の議決を経て実施されると言うシステムを創り上げる事でありませぬ。

その為にはなによりもより多くのOB諸氏の理事会への参加と、自由闊達なご意見を期待致すものであります。最近、若手OBの参加も目立つようになり、常時10名を越すOB諸氏が老若を問わず、もっと沢山お集まりいただき、和気あいあいの中にも真剣な議論がなされることを期待致しております。なお、蛇足にはなりますが、理事会はどなたでもOBである限り、自由に参加できますので、是非ご出席を承りご意見を自由にお聴かせ下さる事をお願い申し上げます。

OB諸兄のご健勝をお祈りし、ご挨拶といたします。

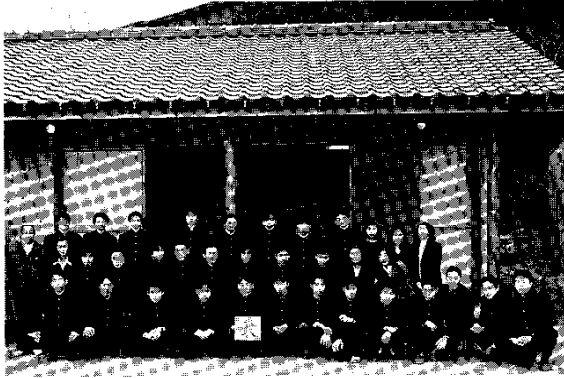


平成6年 早稲田ヨット部社行会 於大隅講堂前 (H7.3.7)

現役ヨット部 95年前半

470 健闘

スナイプ苦闘



平成7年度 合宿所開き 2月



社行会 3月

関東インカレ；5月3～5日、森戸海岸。60校。

470級	3位<日、関東、早、法、中、明、の順>
スナイプ級	6位<関東、日、法、明、中、早、の順>
総合	3位<日、関東、早、法、中、の順>

東京6大学；5月13～14日、三戸浜

470級	2位<明、早、法、東、立、慶、の順>
スナイプ級	3位<明、法、早、立、東、慶、の順>
総合	3位<明、法、早、立、東、慶、の順>



春季インカレ 4月



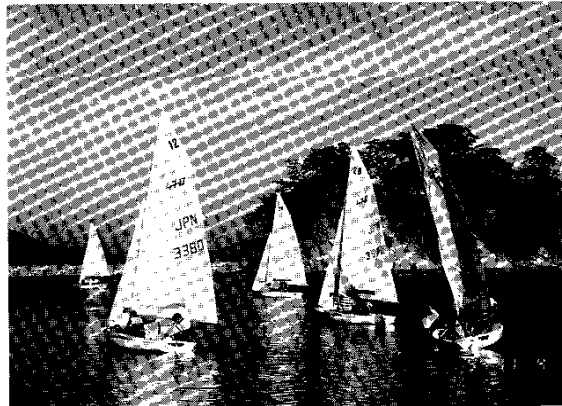
早慶戦；6月3～4日、三戸浜

470	大勝ち
スナイプ	大負け
総合	勝ち (通算25勝/29敗)

同志社；6月17～18日、三戸浜

470	勝ち
スナイプ	負け
総合	負け

10月の関東インカレ、11月初旬の全日本インカレ(葉山)に向け心機一転を期待したい。



対同志社戦 6月

土肥理事長再任

去る平成7年3月17日、永楽倶楽部において本年度総会がOB諸兄多数の参加を得て開催され、当クラブの人事、予算・決算、事業内容などが承認・決定された。理事長には土肥丈志氏(昭30)が再任、事務局長には小川寛樹氏(昭54)が新しく就任。(別項に就任ご挨拶)

10大学OBレース

<6月10/11日・毎年・諏訪湖>

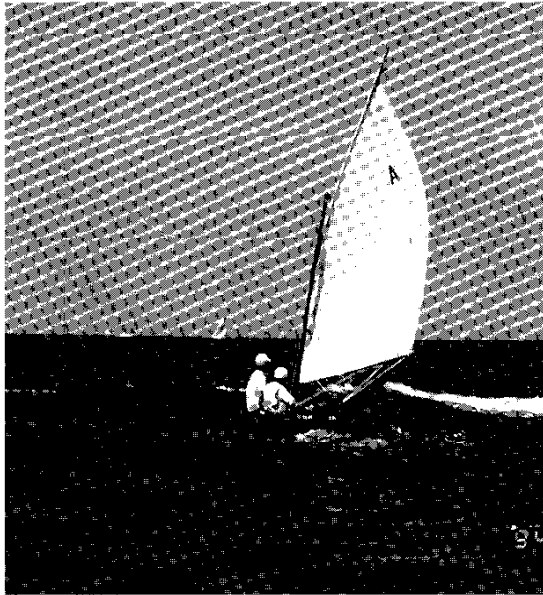
今年の出場は、堀江、加藤久、石井章、位田、浜田、舟岡、小川、河原。今年は13校150人の参加があった。各チーム若手を繰り出して勝ちにくる。ウチも若手の積極的参加を期待します。来年は初優勝を狙ってほしい。幹事：浜田裕氏。TEL；0426-44-8261

A級ディングー全日本

<7月29/30日・琵琶湖>

このレースも次第にふえて15チームの参加が予定されている。今年も同志社が当番校。早稲田主唱で始まったこのレース、全国の超オールド・ヨットマンのハートに火をつけた。早稲田出場選手の平均年齢切り下げに中年OBの参加を望みたい。

担当幹事は石井章夫氏、TEL;0422-54-3806



計 報

昭和23年OB、林弘様が去る7月8日、亡くなりました。享年69才。ここ8年闘病生活だった。

海軍出身の林さんは、確固たる信念の持ち主であった。昭和21年復学後ヨット部再建に努力された一人である。海軍式のテキパキした動作は横浜ヨットハーバーの名物であった。

昭和31年から34年まで4年間はヨット部の監督を勤められた。まず学生の自宅訪問から始まって、部財政の立て直し、さらにマネージャー専任制などシステム化を計った。

この頃はポリエステル・セールが導入される時期でもあり、学生ヨットの転換期であった。34年、関東インカレ優勝をなしとげ全日本でも健闘した。西宮の海を自ら帆走し、六甲の山から潮流を読むなど学生を納得させ指導された。

早風での各レースにも艇長として何度も出場、合理的な海軍式指導で若者を鍛えられた。この頃の早風の艇長は並木茂士である。この時期のOBの現在にいたるヨット界への多大な功績貢献は、林さんの情熱指導に無縁ではない。

藤倉電線の經理の専門家として重きをなした方であった。晩年の枕元には早稲田ヨット50年史があり常にご家族にヨットの話しをしてはご機嫌だったという。

謹んで皆様と共にご冥福をお祈りしたい。

(米田晴二)

4 大学OB戦

<10月14/15日・熱海>

当番校は慶応。ウチの担当幹事は、ぐっと若くなって必勝を期する。老人は海上での応援に回れ。我と思わん者の参加を。

担当幹事は森田朋愛氏、TEL;045-782-8537

関東ヨットメンズクラブ

<10月24日・東京湾上>

今年は東京湾クルーザー『シンフォニー11号』特別室。昨年157人集まった。女性歓迎。会費1万円/同作者8千円。ムードがあるよ。

担当幹事は浜田裕氏、TEL;0422-44-8261

渡辺輝雄氏・3位入賞

<メルボルン・大阪ダブルハンド・ヨットレース>

3月25日メルボルンをスタート、5500マイルを走破して5月6日、深夜大阪北港に無事フィッシュした。レーシングBクラス、3位入賞である。健闘を祝したい。渡辺氏は、1983年(昭58)OB、岐阜県海津高校、早稲田、卒業後もヨット一筋です。ダブルハンドの相棒は、海津高一富山大OB/棚橋君。コンテナで送った荷物がトラブッテ未だ着かず。そのうちリポートをいただきます。



理事会は毎月、第三木曜日

早稲田の40もある運動部の中で、現役を支援する組織として最も評価されているわが理事会は、1978年(昭和53年)から、一貫して毎月3木の夕方6時、そして大手町の永楽クラブです。決まった理事だけでなくOBならだれでも参加できる。事前確認をしたい方は、小川事務局長TEL;03-5540-3499(直)

永楽クラブのTELは3231-6439です。

なお、当口の飲食費用は常にフリカン。約4千円。(学生からはとらない)この費用を皆さんの会費から使うことは一切しておりません。

理事会に学生代表の出席

現役ヨット部の直接の報告を聞き、支援の効率を高めるため主将・主務の出席をしてもらうようにした。従来から行われている寄付・奉賀帳・記念品販売が一部のOBに偏らないよう理事会の機能を役立たせる狙いもあります。